

IV—2. 生活者の視点による科学知の編集手法開発

Editing Method on the Scientific Knowledge from the Viewpoint of Ordinary People

キーワード	科学知, 生活者, NBM(Narrative Based Medicine)
Key Word	Scientific Knowledge, Ordinary People, NBM(Narrative Based Medicine)

1. 調査の目的

JST の社会技術研究の枠組みにおいて、専門家から非専門家(市民、生活者など)への「科学知の一方的移転」という視点から脱却し、生活者および科学者・専門家の双方からの「科学知の共同編集作業」の構築手法の開発をめざした。

まず、知の編集手法について、ウェブ技術を活用した最新動向の分析を行った。生活者の視点からみた身体知・経験知と専門知の関わりについて、患者学や終末期医療をめぐる関係者へのインタビューや文献サーベイなどを行った。

2. 調査研究成果概要

(1) 知の編集手法の開発

ウェブ 2.0 等の次世代ウェブ技術の進展は、科学者コミュニティ内部のコミュニケーションを変えつつある。一方、科学者が生活者と向き合って情報を伝えようとする動きはほとんど見られない。ウェブ 2.0 的な世界の中で、科学の知識を生活者が主体的に再編集してゆくためには、「マッシュアップ」(ネット上の複数のコンテンツやサービスの組み合わせ)を行う道具が必要となる。科学技術知のマッシュアップの担い手は、モチベーションの高い先進的利用者(ポストクや学校教員、科学館職員、NPO 関係者等)が想定される。マッシュアップを活性化させるためには、個々のユーザが利己的な興味や、自己利益を追求するという「参加のアーキテクチャ」が重要である。

(2) 生活者の視点からみた身体知・経験知と専門知の関わり

臨床医療の現場において、医者(専門家)主導の医療から、生活者・患者主体の「患者学」のあり方が問われている。具体的には、医学的専門知識にもとづく EBM(Evidence Based Medicine)から、専門家(医師)と生活者(患者)の「身体知の共同編集作業」としての NBM(Narrative Based Medicine)への発想の転換が模索されている。本研究では、医療従事者と患者をつなぐ様々な「媒介者」の役割と機能、生活者・患者のエンパワーメントの方法などを検討した。

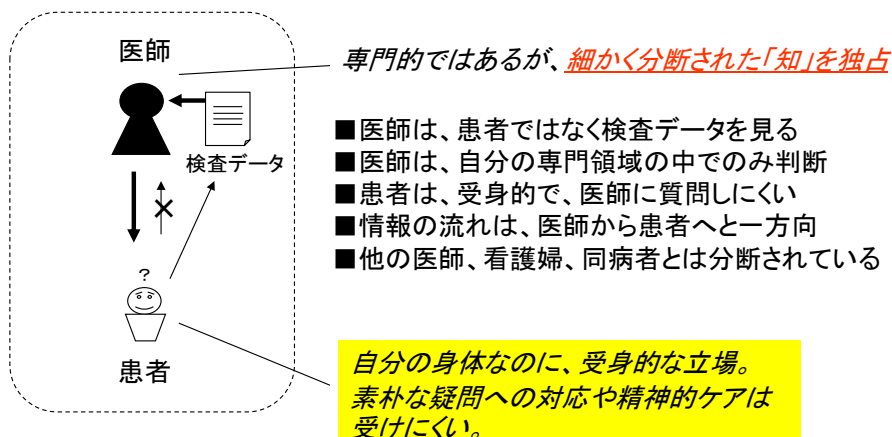


図1 医療現場におけるコミュニケーションの流れ

科学技術コミュニケーションの中での、専門家と非専門家(生活者)による知の共同編集手法の可能

性について、事例分析と関係者との意見交換などをもとに体系的に整理した。

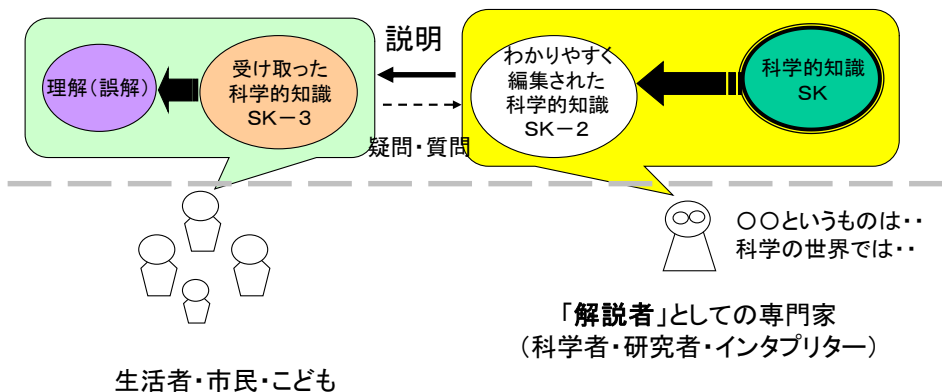


図2 従来型のサイエンスコミュニケーションモデル

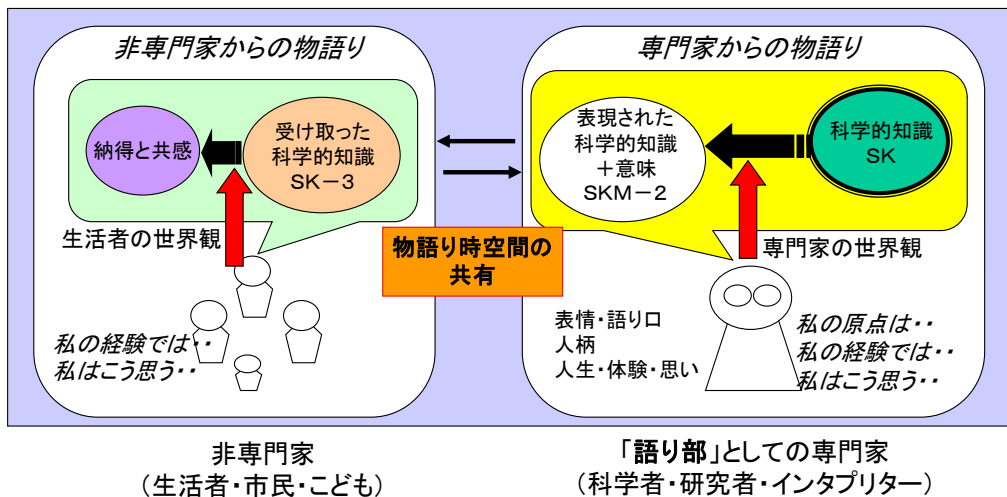


図3 ナラティブ的要素を加えたサイエンスコミュニケーションモデル